

デイリー・ジーザス・ニュース #280

木曜日...指導と逮捕の日

最後の晩餐

イエスは弟子たちの足を洗う

ヨハネ13.1-11

=====

1 過越の食事をする直前のことでした。イエスは、この世を去って父のもとに行くべき時が来たことを知っていたので、世にいるご自分の者たちを愛し、彼らを最後まで愛されました。

2 夕食が始まっており、悪魔はすでにイスカリオテのシモンの子ユダにイエスを裏切るよう決定的に唆していました。

3 イエスは、父がすべてのものを自分の手に渡されたこと、また、自分が神から来て、神に帰ることを知っていたので、4 食事の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいを腰に巻かれた。5 それから、イエスはたらいに水を入れて弟子たちの足を洗い、体に巻いたタオルで拭き始めました。

6 イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ、わたしの足を洗ってくださいませんか。」

7 イエスは答えて言われた。「わたしのしていることは、あなたがたには今はわからないが、後でわかるようになる。」

8 「いいえ」とペテロは言いました。「あなたが私の足を洗うなんてあり得ません。」

イエスは答えました。「私があなたを洗わないなら、あなたは私と交わりがありません。」

9 シモン・ペテロは答えた。「主よ、では、足だけでなく、手も頭もです。」

10 イエスは答えられた。「洗った」者は、まだ清いのです。足だけを洗えば、全身清いのです。あなたたち全員が清いわけではありませんが、皆清いのです。」

11 イエスは、だれが自分を裏切ろうとしているかを知っておられたので、すべての人が清いわけではないと言われたのです。

=====

"the whole truth, and nothing but the truth about Jesus"

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレムの上の部屋
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階: 受難週
	D. 木曜日: 指導と逮捕の日
	最後の晚餐
タイトル	イエスは弟子たちの足を洗う

コメント:

イエスは、弟子たちの間で誰が一番偉いのかという議論をちょうど終わらせたところだった。イエスは彼らに、権威を持つ者は臣下に対して自由に権威を行使することで権威を示すという、彼らの文化的な考え方に固執しないように、二度目に命じた。イエスは弟子たちに、自分とは異なる者、つまりイエスのような者、謙虚で愛にあふれ、奉仕する指導者となるよう命じたのだ。

今、イエスは彼らの足を洗うことにより、奉仕における真の偉大さのもう一つの例を示しました。これはヨハネによる福音書の中で最も深く、多様な意味を持つ箇所の一つであり、物語の中に幾重にも重なる意味を詰め込むことに長けています。注目すべきは、これらの様々な意味は矛盾したり、分岐したりしているのではなく、玉ねぎの様々な層が一つの実体を構成するように、すべてが一つの核となる意味のより深い次元を明らかにしているということです。

客が家に入るたびに足を洗うのが習慣でした。これは汚くて報われない仕事で、通常は最下層の奴隷、あるいは家の一員が行っていました。一行が2階の部屋に入った時、問題が発生しました。明確な主人がいなかったのです。彼らは皆、他人の家に招かれた客だったのです。この必要不可欠でありながら屈辱的な奉仕を行う責任のある者は誰もいませんでした。ペテロとヨハネは過越の食事の準備に何時間も費やしましたが、奉仕のおかげでそれ以上の仕事を免除されと思ったに違いありません。結局のところ、それでは不公平です。

状況をさらに悪化させたのは、使徒たちのプライドが、自分たちの監督によって主がこの一般的な礼儀を尽くされなかったという事実を見落としたことでした。イエスはパリサイ人の家に入り、足を洗ってもらえなかったことで侮辱されましたが、彼らはイエスの敵でした。彼らからそのような扱いを受けるのは当然のことでした。

イエスを師であり主として愛し、敬う友人たちと共にいるにもかかわらず、まさに彼らに足を洗ってもらえなかったことは、イエスに対する甚だしく不適切な行為でした。しかし、弟子たちは自らの偉大さにうぬぼれ、議論によってその優位性を守ることに躍起になっていたため、自分たちがいかに師を貶めているかに気づいていなかったのです。

そこでイエスは彼らをもてなすことを選ばれました。ヨハネは物語の冒頭で、イエスについて二つのことをあえて強調しました。第一に、イエスは生涯の初めから終わりまで、ご自分の民を愛しておられました。この足洗いは、イエスの愛のもう一つの輝かしい啓示でした。この愛こそが、イエスが再び日が沈む前に、これらの人々一人一人のために命を捧げるに至る原因となったのです。

ヨハネはまた、イエスが神の子としての絶対的な權威と完全性を認識していたことを指摘しました。イエスは、父なる神が神として持つすべてのものが、同じようにイエス自身のものであることをよく知っていました。

イエスは世俗の王たちが何をするとおっしゃっていましたか？「異邦人の王たちは、その支配権を握っていません。」権力を持つ者は、その力を使って他人を自分の命令に従わせます。全能の神の全能の力を持つ人であるイエスは、何をしましたか？その力への意識が、愛と謙虚さによる奉仕へと導きました。なんと素晴らしいことでしょう！

イエスが食卓から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいを体に巻いて働きに向かった様子を描写したヨハネの言葉は、福音書の中で最も威厳に満ちたイエスの場面の一つです。これは、イエスが神としての栄光を捨て、地上の奴隷となった様子をパウロが語っているように聞こえます。確かなことは一つあります。それは弟子たちにとって、主がこれまで見たことのないような衝撃でした。ペテロの反応は、彼ら全員の気持ちを代弁していました。

応用：

愛と權威は奉仕における謙虚さにつながります。

イエスは、誰もが高尚な自尊心には値しないと考えるような、最も卑しい仕事を引き受けることを恥じませんでした。イエスは自分が何者であるか、自分の資質を知っていました。自分がどこから来て、どこへ行くのかを知っていました。指先に無限の力を備え、愛する者たちの足についた汚れを、やがて釘の跡が残るであろうその全能の手で洗い流すことができました。

具体的な応用についてはあなたにお任せします。